

今月の道の駅

11月

能登町の魅力たっぷり

「道の駅 桜峠」



「道の駅 桜峠」は、奥能登のほぼ真ん中、奥能登の動脈とも言える珠洲道路沿いにあります。夏の能登を代表する「キリコ祭り」の大きな御神燈「キリコ」の形をした看板が目印です。

旧柳田村（現能登町）の活性化を図るため、平成8年9月にオープンしました。

■ 大人気の地元高校生の手作り加工品

オープン当初は、手探り状態で地元の和菓子や能登島ガラスなどを販売していましたが、現在は様々な地元能登町自慢の品々や、他地区の「道の駅」のこだわり特産品でいっぱいです。

これらの商品達の中に、「能登青翔フーズ」ラベルの味噌やクッキー、ジャムなどが並んでいます。「能登青翔フーズ」は、地元の石川県立青翔高校の食品科の学生たちが手作りしている加工品です。無添加味噌が一番人気で、入荷してもあっという間に売り切れてしまいます。

「道の駅」には、開店当初から、青翔高校生たちがアルバイトとして働いています。高校生たちが、自分たちが作った手作り加工品を販売することは、販売にも力が入りますし、また、より良いものを作ろうという意識に繋がります。地元の「やる気」を手助けするのも、「道の駅」の大事な仕事です。

■ 能登の味を詰めて・能登井販売開始

奥能登4市町（能登町・珠洲市・輪島市・穴水町）の飲食店や宿泊施設で展開する「能登井」は、奥能登産のコシヒカリなど、奥能登の食材を使った井です。

「道の駅 桜峠」では、12月1日から3月31日までの予定で、「こりゃまいじゃ井」を昼食時に限定10食、販売します。地元柳田特産の「こりゃまいじゃ」というお米を使い、お米にあった食材を乗せています。乗せる食材はお楽しみ。「道の駅」に、ぜひ食べにきてください。

※「こりゃまいじゃ」は能登弁で「こりゃ、うまい」という意味

■ 桜の花咲く「道の駅」へ

「道の駅」が設置されている場所は、当日地区の桜峠という場所で、かつては桜の大木があって、行き交う旅人の目印になっていたそうです。「道の駅」ができた当時は、その大木はありませんでした。そこで、地元の方達が「桜峠の名前にふさわしいように」と、ソメイヨシノや八重桜を、道路沿いに植えてくれました。「道の駅 桜峠」は、地元へ還元・貢献する活動を行いながら、また、地元の方達に支えられています。

焙煎仕立てのコーヒーの香りに包まれて、峠でほっと一息しませんか。

奥能登の気持ちがたっぷり詰まった「道の駅」は、今日も元気ががんばっています。

